

第 6 回北川村文教施設・子育て環境等整備事業基本計画検討委員会 議事録

開催日時	令和 3 年 1 2 年 1 5 日 (水) 1 9 : 1 0 ~ 2 1 : 0 0
開催場所	北川村立北川小学校 多目的ホール (オンライン併用)
出席者	<ul style="list-style-type: none"> ■ 永野委員長、森本委員、小笠原委員、田中委員、山崎 (美) 委員、山崎 (和) 委員、田所委員、弘田委員、阿部委員 伊庭委員、倉斗委員及び中山委員 (リモート参加) 計 1 2 名 ■ アドバイザー 柳川アドバイザー ■ GPMO 湯川 ■ 事務局 野見山副村長、西岡教育次長、百々次長補佐、溝渕主幹
議題	<p>(1) 開会</p> <p>(2) 前回内容の確認及び基本計画 (案)</p> <p>(3) 保小中一体化及び複合化を実現する建物の可能性について</p> <p>(4) サウンディング結果報告</p> <p>(5) その他</p> <p>・ 次回の検討委員会について</p>
配布資料	<ul style="list-style-type: none"> ・ 資料 1 第 5 回検討委員会議事録、基本計画 (案) ・ 資料 2 保小中一体化及び複合化を実現する建物の可能性について (面積規模の試算等) ・ 資料 3 サウンディング結果報告

議事経過	<p>(1) 開会</p> <p>【事務局】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事務局挨拶
議事経過	<p>(2) <u>前回内容の確認及び基本計画(案)(第5回検討委員会議事録、基本計画(案)【資料1】)</u></p> <p>【事務局】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・【資料1】に基づいて説明 <p>【山崎美砂委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちの特性を踏まえて、地域の方に開かれた交流施設をつくっていく方向性は、現状の子どもたちの課題を解決するのに向いていると思った。 <p>【山崎和美委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまでの議論を踏まえてわかりやすくまとめてくださっている。 <p>【弘田委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・わかりやすくまとめてくださっている。少ない人数であるので、小さいときからお兄ちゃんお姉ちゃんと交流できる方がよりよく学習できると思う。 <p>【阿部委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまで学校というのは入りづらいイメージがあったが、外部と交流できるようになると親近感もわき、地域でも子どもに声をかけやすくなると思う。 <p>【田所委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一貫教育はぜひやってもらいたいと考えている。小学生や中学生が小さい子とふれ合い、働くことを知ることは重要である。また、世代間交流を行い、お互いを知れることはいいことだと思う。一方で、保育所がどのように関わるのかはわからない部分もあり、一体的な校舎について今後具体的に進めていってもらえればと思う。 <p>【倉斗委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・そもそも村として一貫校化することや複合化をするのは、手段であって、目的があると理解している。その目的をみなさんと共有していくことが重要であると理解している。 ・また、保育所を一緒にすることの意味についてご発言があったが、今後一貫校や複合化に舵を切っていく場合は、全国で一貫校化などの事例がたくさんあるので、そういった事例も踏まえて検討していければと思う。 <p>【伊庭委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いま目的の話があったが、教育を通じて子育て世代を呼び込むことと子どもたちの教育をより良くすることが目的だと理解している。前者については、教育だけひとを呼び込むのは非常に難しい。そのため、就業環境や医療などの北川村のファンダメンタルズ(基礎的な要素)が整備されないと難しい。後者については、一貫校化は、子どもたちにとって、各校種の接続をスムーズにするというのが大きい。上級生が下の子どもたちとの交流することで、人の繋がりとか人の豊かさみたいなものが育まれるメリットがあると思う。一貫校化することが、どのような効果を得られるのかという分析はしっかり検討すべきであると思っている。加

	<p>えて、2つの目的に対して北川村の子どもたちにとって、どのような効果があるのかを分析できればと思っている。</p> <p>【小笠話委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> 基本計画（案）P. 9の「IT化～」部分について、ニュース等の見聞きする全国の事例をみるともはや当たり前になっていると理解しているが、そう考えると、この部分が魅力的かつ特色ある教育活動の創造の箇所にあるのは違和感がある。 <p>【事務局】</p> <ul style="list-style-type: none"> 外国語教育については英語が当たり前のように進められているが、北川村については、モネの庭があり、フランスとの交流がある。そのため、英語と同じようにフランス語もできるようになっていったら良いと考えている。 <p>【柳川アドバイザー】</p> <ul style="list-style-type: none"> 異動がある公立学校の特色を踏まえて、大きく進めすぎてしまうと新しく赴任した先生が追いつかなくなるようなことも考えられる。そこが、私立と大きく異なる点であると考えている。そのため、新しく赴任してきた方も対応できるような、地域に根付かせていくようなシステム、仕組みを構築することが必要であり、今後の課題でもある。 <p>【中山委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> 全体的な意見として、教育の内容を検討する際に、保育所の学びが小学校、中学校の学びに対して後で付け足されている印象がある。自主的、主体的な学びというのは、幼児期からある学びの1つである。保育所にもしっかりとした学びがあるのだという位置付けをしてもらって、保小中の学びを連携させてほしい。 建物については、学校施設内だけではなく、園庭や外の学びも重要であり、乳幼児にとって大切な遊具も検討してもらいたいと考えている。
議事経過	<p>（3）保小中一体化及び複合化を実現する建物の可能性について（保小中一体化及び複合化を実現する建物の可能性について（面積規模の試算等）【資料2】）</p> <p>【柳川AD】</p> <ul style="list-style-type: none"> 【資料2】を基に説明 <p>【山崎美砂委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> 写真をみた感じでは狭くないと思ったが、電子黒板など多くの備品があるので少し狭くなると感じている。可動式については、防音ができていれば可動式の間仕切りは使い勝手が良くて魅力的である。 <p>【柳川AD】</p> <ul style="list-style-type: none"> 電子黒板は、過渡期があって様々な用法があったが、設計の段階で壁面につけていくことで、対応できるのではないかと考えている。 <p>【田中委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> タブレット端末が導入されたことで机が狭くなっているのではないかと感じている。どう対応するかは気になっている。 これまで特別支援学級ができるたびに、中を改修してきた経緯があるので、レイアウトを簡単に変えられるのはいいと考えている。

【柳川 AD】

- ・国の委員会でも、机が小さいという意見はでていっているので、今後そういった意見を基本計画にコメントとして付記していくことも考えている。
- ・特別支援学級についても、間仕切りを設けると同時に、どこの場所に設置するのも重要である。プライバシーの観点からも、落ち着いた空間も重要であるので、そういった内容も追記していきたい。

【山崎和美委員】

- ・施設の広さについて、現在の年長が6名、年中4名、年少3名で人数も少なく、現在の状況で十分ではないかと考えている。ただ、今後人数がさらに減ることで、年長も一緒になると、その状況に合わせて用途が変更できるようになると良い。

【倉斗委員】

- ・机の大きさについて、現在、文部科学省の委員会でもタブレットが導入されてどうなるのかという議論は継続して行っている状況である。タブレットが全員に配られている段階で全員同時に自分の手元で何かを見るということもできるとなった時に、一斉に同じ方向を向いている机ということも将来的にどうなるのかわからないというような議論もある。現にヨーロッパなど他の外国の学校を見てみると、低学年ではテーブル形式で4人とか6人とかで学習するスタイルもあり、その辺りは現在過渡期なので議論しにくい部分もあるが、少し柔軟に考えてもいいのではないかとこのように思っている。北川村のことで言えば、児童生徒数が非常にコンパクトな規模感ということは、逆に捉えると非常に柔軟な運用ができることにもなるので、例えば一斉的な全員で前を向いて先生の黒板の場面を見るような授業をする空間もあれば、グループで行う部屋もあるというような空間も可能だと思っている。なので、個別最適の学びということが今後空間的にどうなっていくのかということも同時にイメージしながら議論を行っていきたい。

【伊庭委員】

- ・20億円程度の試算がなされているが、1000人規模の村のため、1人当たり200万円の負担、4人家族の方で800万円の負担をして、子どもたちの教育のための建物だけではなくて、ソフトの方もお金かかっている中で、将来のあるべき姿の議論を行い、どんな教育を行っていくのかということから建物を考えないといけないと思っている。英語、フランス語の教育でも、自動通訳みたいなことができるようになってしまったりして勉強すること自身の意味がなくなってくる可能性だってないことはない。建物の形状とかって議論はまた後にして、将来の教育ってどうなっていくのかということも北川村で考えるべきである。北川村特有のここで自分の人生捨てても子どもたちをここで育てたいと思うような教育というのは一体何なのかという議論をするべきではないか。もう少し先鋭的な議論を行って、そこから導き出されるあるべき建物っていうのは何かを考えたい。学校を立てて改築すると40年先50年先の話なので、議論を深めたほうがいいのではないかなと思っている。

【柳川 AD】

- ・地域住民の感覚というものと先進的な学びというものをどうすりあわせて行くのがそこもすごく大事になってくると思う。保護者からすると、夢もあるかもしれないけど不安もあり、そのあたりは村をあげて議論していけるような環境になっていけると良いのではないかと感じている。

【柳川 AD】

- ・【資料2-2】に基づいて村民会館の複合化について説明。

【阿部委員】

- ・畳の空間はリラックスでき、子どもを安全に遊ばすことができるのではないかと。

【弘田委員】

- ・公園に砂場があると、ありがたいと感じている。内部というよりも外部の環境も大切にしてもらいたい。

【森本委員】

- ・図書館のイメージは良いので、村外からも来てくれるのではないか。

【柳川 AD】

- ・図書館もこれまでの図書館とは性質が変わってきていて、今までだと本を読む場所であったが、学びの中で授業の中で子どもたちがやってきて、司書の先生がアドバイスをするような学び、教育的な観点が重要であり、また、土日曜日も利用できるような環境もどうだろうかと考えている。

【山崎美砂委員】

- ・家庭科室や理科室は子どもたちや先生が使用していないときに、村民の方に開放することは良いと感じている。図書館については、村民全体の図書館として、調べたりパソコンをしたりなどいろんな機能を備えていくのは良いと感じている。

【柳川 AD】

- ・これまで子どもたちが作成していったものを保管するなど博物館的な機能を付加することも考えている。

【山崎美砂委員】

- ・管理の面は検討しないといけないが、そういった環境は良いと思う。放課後に子どもたちが宿題をしたりするような個室などもあると良いのではないか。

【山崎和美委員】

- ・図書室に関しては、年長になると、遊びの中で気になったことを調べ物をする際にすぐに調べられる状況にするのが良いと感じているが、大きいライブラリーだとその機能が果たせるのか気になっている。
- ・食育の面で、料理ができるような空間があったら良いと思う。

【倉斗委員】

- ・今回柳川アドバイザーからご提示していただいた写真は、イメージを持ってもらうために出されたものであると理解しており、逆に言えば、教育ビジョンさえ整っていればどういった施設が良いのかが専門家から出てくるものだと考えている。なので、検討委員会では、北川村の教育ビジョン、教育サービスなどソフトの部分を具体的に考えていかないといけないと考えている。そこがクリアになれば、様々な設計を含めて手段を検討できる。今見せて頂いた写真に対して、北川村だとどうなるかという話について、頭の中に「北川村ではこういう教育したいな」ということがあるから、この写真に対する評価が出てくるのだと思うので、その部分をうまくまとめていく作業がこれから重要であると考えている。

【伊庭委員】

- ・ソフトの面でお金がかかってくるので、基本的に公民連携の考え方からすると、行政行財政改革っていう視点がどうしても外せない。これから30年40年という長い期間にわたって北川村さんが財源的にもつのかという検討も一方では必要になってくる。先ほどの事例の双葉町や富岡町にしても、東北の震災のあとの復興資金や原発事故によるお金が非常に潤沢に入ってきている。ふたばの自由学園にしても非常に素晴らしい学校になっているが、これから何10年もあの町で維持できるのかという危惧がある。北川村さんの場合も、財源の検討は一方ですっかりとやっておく必要があると感じている。

【中山委員】

- ・ 教育の内容について議論をして行く際に現場の先生方が豊かにそのイメージが持てるのかはすごく大事だと考えている。県内で言うと、例えば香美市大宮小学校は国際バカロレア教育を導入し、特色ある教育を行っているので、異動のある先生方がそういった特色のある学校に異動した際に、どう向き合えているのかといったことが学べるのではないか。そこでは、もうすでに机が四角ではなく台形の形が使われていて、廊下との間の壁がなくオープンスペースがある状況だった。そういうものを見聞きしてくるとイメージもより豊かになって議論が深まっていくと感じた。

【柳川 AD】

- ・ サウンディングは先週終わったところであるので、今回お示しする予定だったサウンディング結果については、次月に予定していた PFI の定量的な部分の情報と併せてお示ししたいと考えている。

【事務局】

- ・ 【資料 3】 サウンディング結果報告について簡単に説明。

【GPMO】

- ・ サウンディングの内容は、13社からご意見を頂戴しましたが、このサウンディングはあくまでこの議論の検討過程をお伝えしてアイデアをお伺いした内容になっている。そのため、少し空想的であったりする内容もあるかもしれないが、この時点でのご意見として整理して読んでいただければと思う。

【事務局】

- ・ 今後サウンディングの内容は公表するが、内容については企業が特定されないように配慮した形で簡素で公表することはご承知おきいただければと考えている。また、資料の取り扱いにはご注意いただければと思う。
- ・ 次回検討委員会は、1月19日（水）19時～になる。